

平成 27 年 7 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 27 年 7 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 27 年 7 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 2 万 4,567 人でした。これは 6 月の救急搬送人員数 3,032 人と比べて約 8 倍となっています。 7 月中旬からの梅雨明け地域の広がりとともに、全国各地で最高気温が 35 度以上の猛暑日が観測されるようになった事が要因のひとつと考えられます。また、昨年と同時期と比べると 6,160 人増加しており、平成 20 年からの調査開始以降、7 月の搬送人員数としては過去最多となりました。 今後も厳しい暑さが続く事が見込まれており、引き続き厳重な警戒が必要です。
- 救急搬送の状況の内訳については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では高齢者（65 歳以上）が 1 万 2,307 人と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）8,744 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）3,314 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）200 人、新生児（生後 28 日未満）2 人の順となっています。 昨年と比べ高齢者の搬送人員数が 3,766 人増加しています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 1 万 5,527 人、次いで中等症 8,244 人、重症 587 人、死亡 39 人となっています。
 - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、群馬県が最も多く 33.76 人であり、次いで福島県 29.13 人、埼玉県 28.02 人の順となっています。

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

【資料】 [平成27年7月の熱中症による救急搬送状況](#)



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：寺谷、平井、足立

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

平成 27 年 7 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成27年7月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総 数

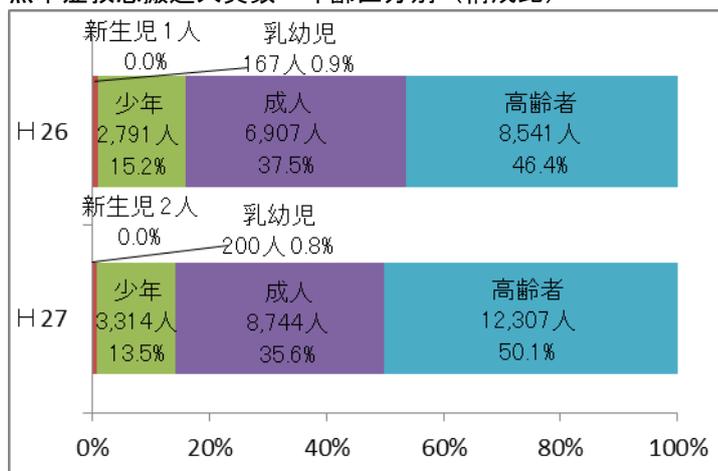
平成 27 年 7 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は2万 4,567 人でした。これは6月の救急搬送人員数 3,032 人と比べて約8倍となっています。7月中旬からの梅雨明け地域の拡がりとともに、全国各地で最高気温が 35 度以上の猛暑日が観測されるようになった事が要因のひとつと考えられます。また、昨年と同時期と比べると 6,160 人増加しており、平成 20 年からの調査開始以降、7月の搬送人員数としては過去最多となりました。今後も厳しい暑さが続く事が見込まれており、引き続き厳重な警戒が必要です。（資料 1、5、6、7）

2 内 訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（65 歳以上）が1万 2,307 人（50.1%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）8,744 人（35.6%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）3,314 人（13.5%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）200 人（0.8%）、新生児（生後 28 日未満）2 人（0.0%）の順となっています。昨年と比べ高齢者の搬送人員数が 3,766 人増加しています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



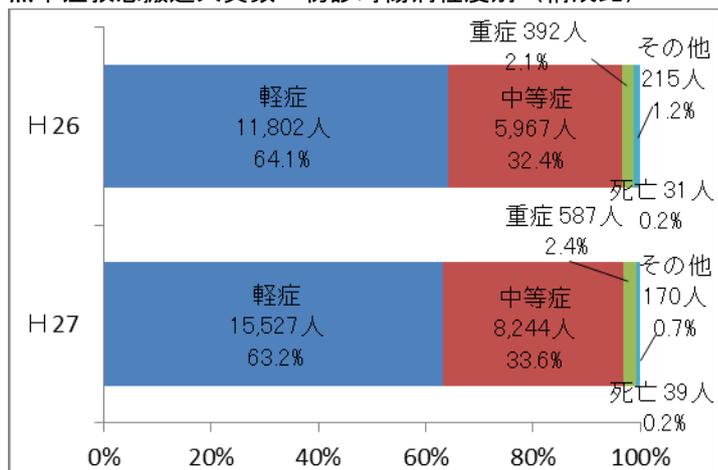
凡例

新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く 1万 5,527 人（63.2%）、次いで中等症 8,244 人（33.6%）、重症 587 人（2.4%）、死亡 39 人（0.2%）となっています。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）

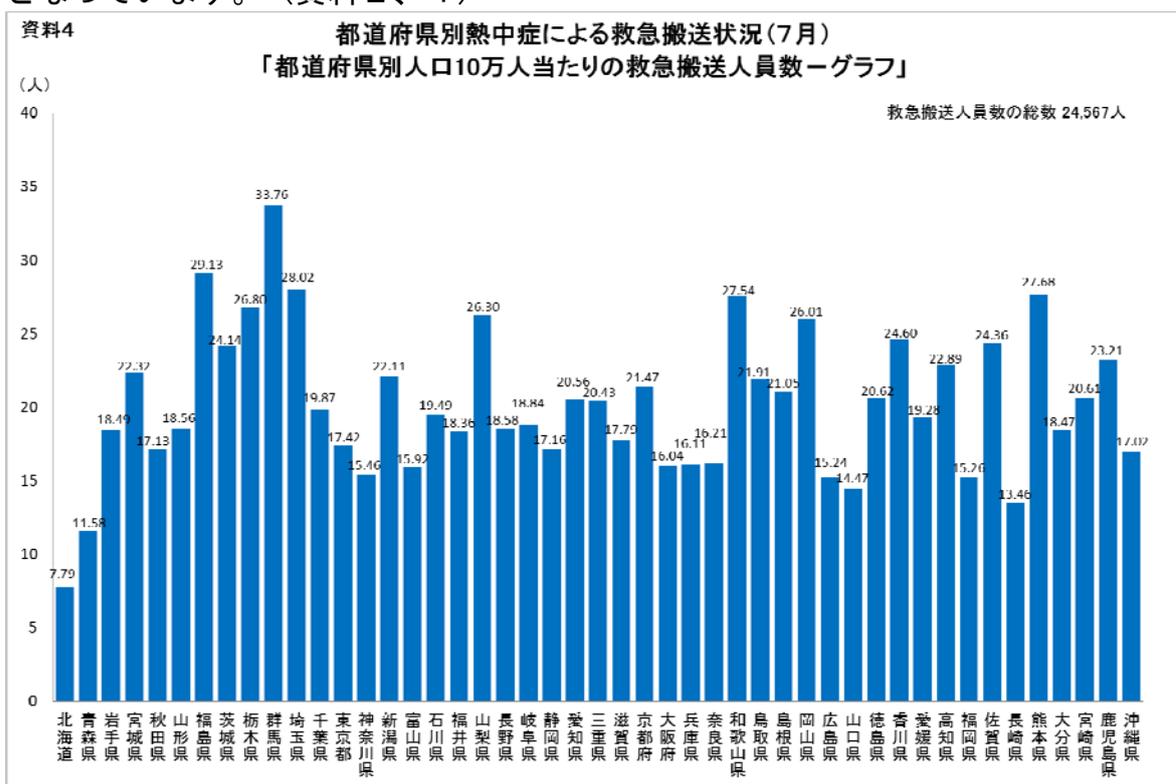


凡例

軽 症：入院を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの
 傷病程度が判明しないもの
 その他の場所に搬送したもの

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

群馬県が最も多く 33.76 人であり、次いで福島県 29.13 人、埼玉県 28.02 人の順となっています。(資料 2、4)



【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

消防庁では、以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

○ 気象庁「7月の天候」より

上旬は、梅雨前線が本州南岸に停滞することが多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かった。一方、北日本を中心に冷たい移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かった。中旬以降は、日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強まり、北・東日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。一方、西日本と沖縄・奄美では、湿った気流が流れ込みやすく、晴れの日が少なかった。気温は、北・東日本では、上旬は北からの寒気の影響を受けて低かったが、中旬以降は高気圧に覆われて高くなり、下旬はかなり高かった。一方、西日本では、上旬は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったため、かなり低く、中旬以降は平年並で、7月の月平均気温としては2007年以來8年ぶりに低かった(速報値)。

平成 27 年 7 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 日別の救急搬送人員数（全国）と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ
- 資料 7 平成 22 年～27 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表
- 資料 8 平成 27 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成27年7月1日～7月31日											
		年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	5	56	134	234	429	1	9	114	275	30	429
2	青森県	0	0	16	58	85	159	0	7	61	91	0	159
3	岩手県	0	0	21	78	147	246	3	12	91	140	0	246
4	宮城県	0	5	78	200	241	524	0	20	291	213	0	524
5	秋田県	0	0	32	47	107	186	1	3	55	124	3	186
6	山形県	0	5	37	69	106	217	0	9	72	134	2	217
7	福島県	0	3	67	199	322	591	1	12	170	408	0	591
8	茨城県	0	6	97	265	349	717	1	19	241	456	0	717
9	栃木県	0	8	70	189	271	538	1	16	205	316	0	538
10	群馬県	0	3	120	225	330	678	2	24	253	399	0	678
11	埼玉県	0	13	241	743	1,019	2,016	8	71	638	1,299	0	2,016
12	千葉県	1	17	200	477	540	1,235	2	23	452	758	0	1,235
13	東京都	0	16	233	892	1,152	2,293	2	76	927	1,288	0	2,293
14	神奈川県	0	15	192	549	643	1,399	0	42	514	843	0	1,399
15	新潟県	0	4	42	193	286	525	0	9	150	362	4	525
16	富山県	0	1	33	54	86	174	0	3	50	121	0	174
17	石川県	0	1	29	79	119	228	1	9	62	156	0	228
18	福井県	0	3	11	48	86	148	0	5	66	77	0	148
19	山梨県	0	4	50	70	103	227	0	3	67	157	0	227
20	長野県	1	1	61	132	205	400	0	13	148	239	0	400
21	岐阜県	0	2	69	132	189	392	0	13	176	203	0	392
22	静岡県	0	3	105	216	322	646	1	13	172	460	0	646
23	愛知県	0	10	213	566	735	1,524	1	26	414	1,083	0	1,524
24	三重県	0	2	53	141	183	379	0	4	78	259	38	379
25	滋賀県	0	4	42	97	108	251	0	4	62	183	2	251
26	京都府	0	3	60	192	311	566	2	2	105	457	0	566
27	大阪府	0	12	215	536	659	1,422	1	11	301	1,109	0	1,422
28	兵庫県	0	6	119	304	471	900	2	10	273	615	0	900
29	奈良県	0	3	33	94	97	227	0	3	66	158	0	227
30	和歌山県	0	2	29	87	158	276	1	5	59	211	0	276
31	鳥取県	0	0	27	40	62	129	1	2	66	60	0	129
32	島根県	0	1	19	38	93	151	0	7	75	69	0	151
33	岡山県	0	2	55	171	278	506	0	8	154	328	16	506
34	広島県	0	0	51	138	247	436	0	9	183	244	0	436
35	山口県	0	1	32	69	108	210	0	4	66	140	0	210
36	徳島県	0	3	25	46	88	162	0	8	52	94	8	162
37	香川県	0	3	33	66	143	245	1	7	102	135	0	245
38	愛媛県	0	3	30	94	149	276	0	5	56	215	0	276
39	高知県	0	1	16	45	113	175	0	5	38	125	7	175
40	福岡県	0	3	117	278	376	774	0	16	383	366	9	774
41	佐賀県	0	3	30	65	109	207	3	0	62	109	33	207
42	長崎県	0	2	22	68	100	192	1	9	75	107	0	192
43	熊本県	0	5	89	164	245	503	0	8	180	314	1	503
44	大分県	0	1	32	65	123	221	1	6	105	109	0	221
45	宮崎県	0	0	34	85	115	234	0	6	88	139	1	234
46	鹿児島県	0	10	33	140	213	396	1	8	169	218	0	396
47	沖縄県	0	5	45	106	81	237	0	3	57	161	16	237
合計【人】		2	200	3,314	8,744	12,307	24,567	39	587	8,244	15,527	170	24,567
割合		0.0%	0.8%	13.5%	35.6%	50.1%	100.0%	0.2%	2.4%	33.6%	63.2%	0.7%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

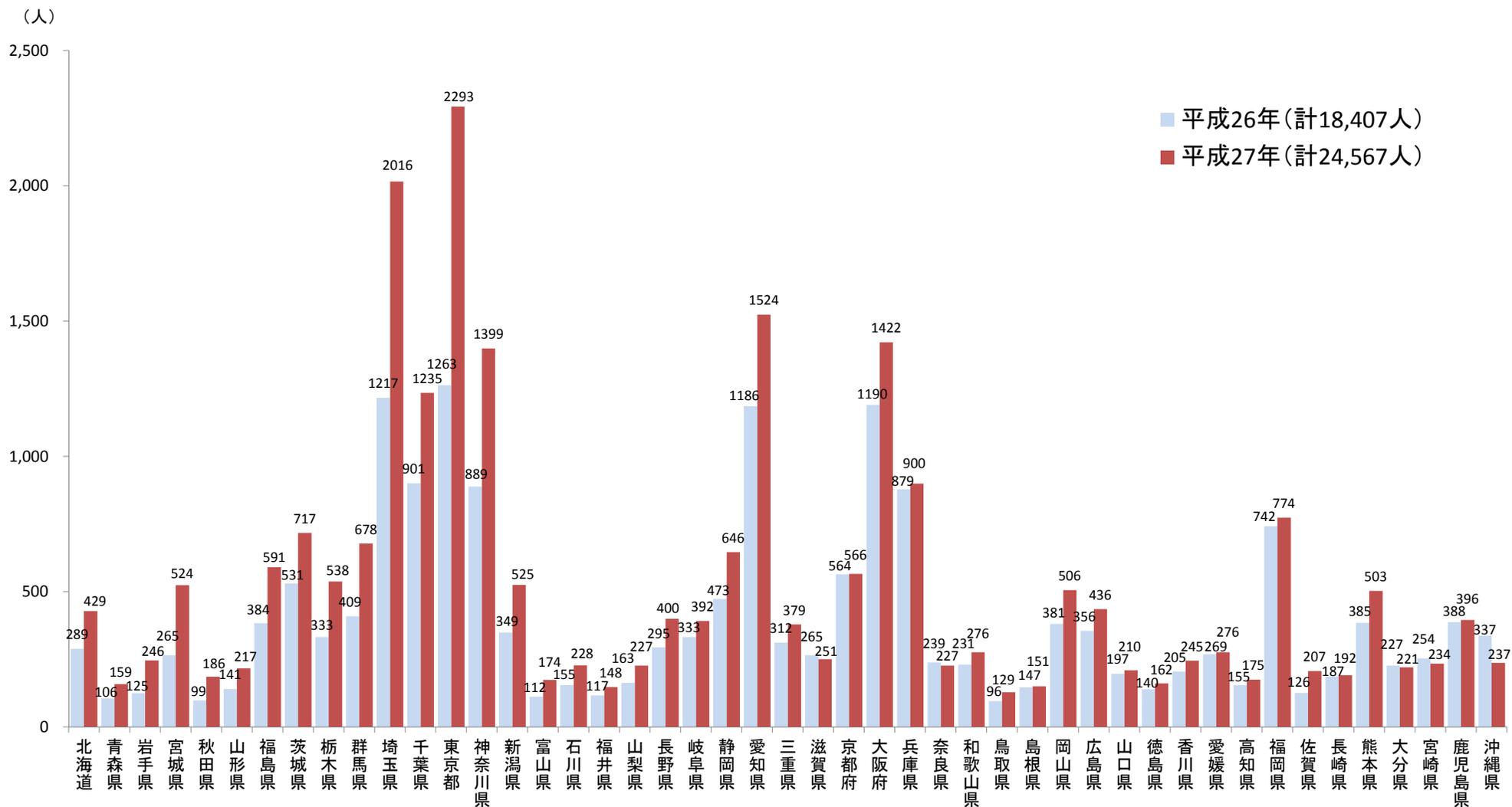
資料2

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	7月1日～7月31日			
	平成26年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)
1 北海道	289	429	7.79	1.5
2 青森県	106	159	11.58	1.5
3 岩手県	125	246	18.49	2.0
4 宮城県	265	524	22.32	2.0
5 秋田県	99	186	17.13	1.9
6 山形県	141	217	18.56	1.5
7 福島県	384	591	29.13	1.5
8 茨城県	531	717	24.14	1.4
9 栃木県	333	538	26.80	1.6
10 群馬県	409	678	33.76	1.7
11 埼玉県	1217	2016	28.02	1.7
12 千葉県	901	1235	19.87	1.4
13 東京都	1263	2293	17.42	1.8
14 神奈川県	889	1399	15.46	1.6
15 新潟県	349	525	22.11	1.5
16 富山県	112	174	15.92	1.6
17 石川県	155	228	19.49	1.5
18 福井県	117	148	18.36	1.3
19 山梨県	163	227	26.30	1.4
20 長野県	295	400	18.58	1.4
21 岐阜県	333	392	18.84	1.2
22 静岡県	473	646	17.16	1.4
23 愛知県	1186	1524	20.56	1.3
24 三重県	312	379	20.43	1.2
25 滋賀県	265	251	17.79	0.9
26 京都府	564	566	21.47	1.0
27 大阪府	1190	1422	16.04	1.2
28 兵庫県	879	900	16.11	1.0
29 奈良県	239	227	16.21	0.9
30 和歌山県	231	276	27.54	1.2
31 鳥取県	96	129	21.91	1.3
32 島根県	147	151	21.05	1.0
33 岡山県	381	506	26.01	1.3
34 広島県	356	436	15.24	1.2
35 山口県	197	210	14.47	1.1
36 徳島県	140	162	20.62	1.2
37 香川県	205	245	24.60	1.2
38 愛媛県	269	276	19.28	1.0
39 高知県	155	175	22.89	1.1
40 福岡県	742	774	15.26	1.0
41 佐賀県	126	207	24.36	1.6
42 長崎県	187	192	13.46	1.0
43 熊本県	385	503	27.68	1.3
44 大分県	227	221	18.47	1.0
45 宮崎県	254	234	20.61	0.9
46 鹿児島県	388	396	23.21	1.0
47 沖縄県	337	237	17.02	0.7
計	18,407	24,567		

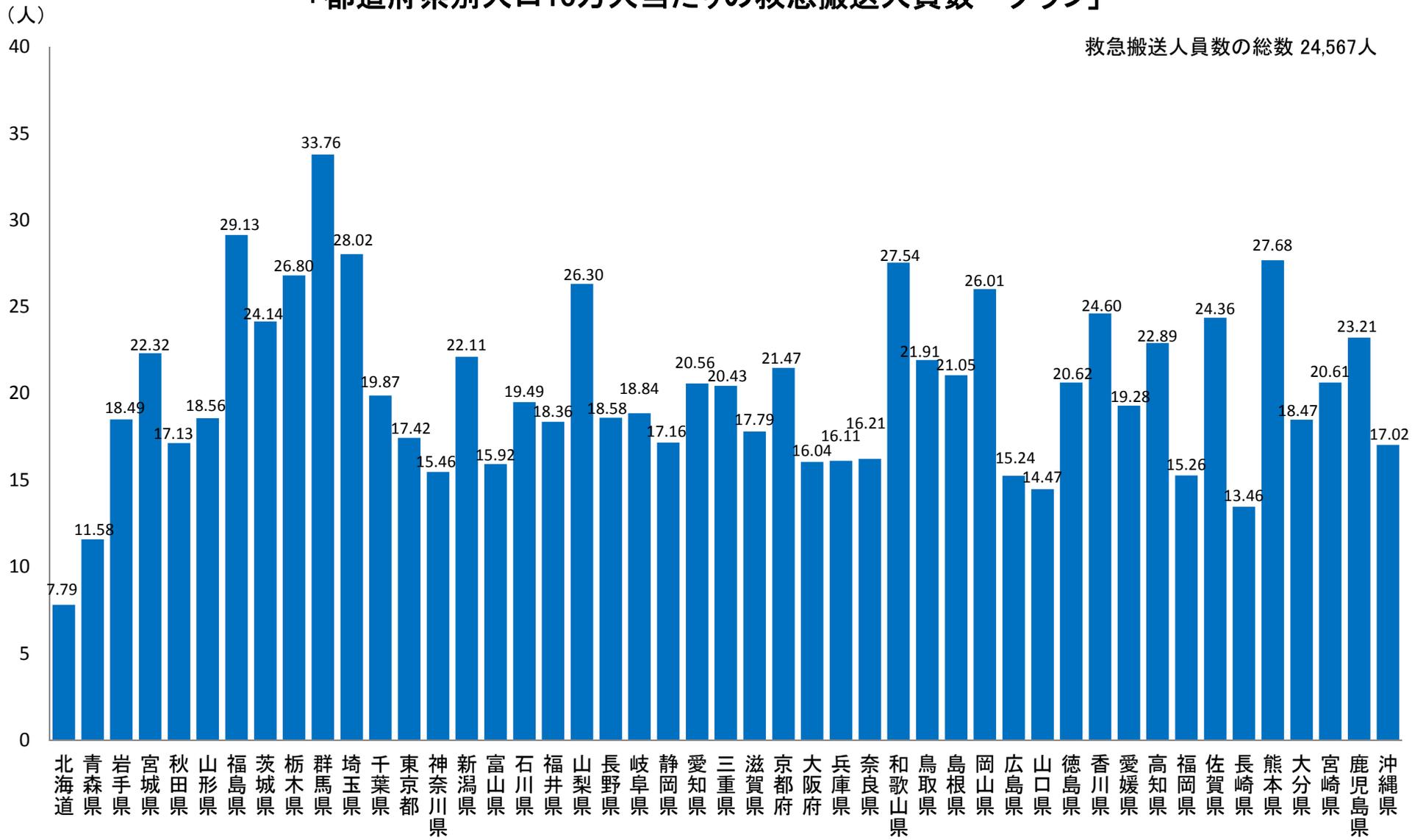
資料3

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



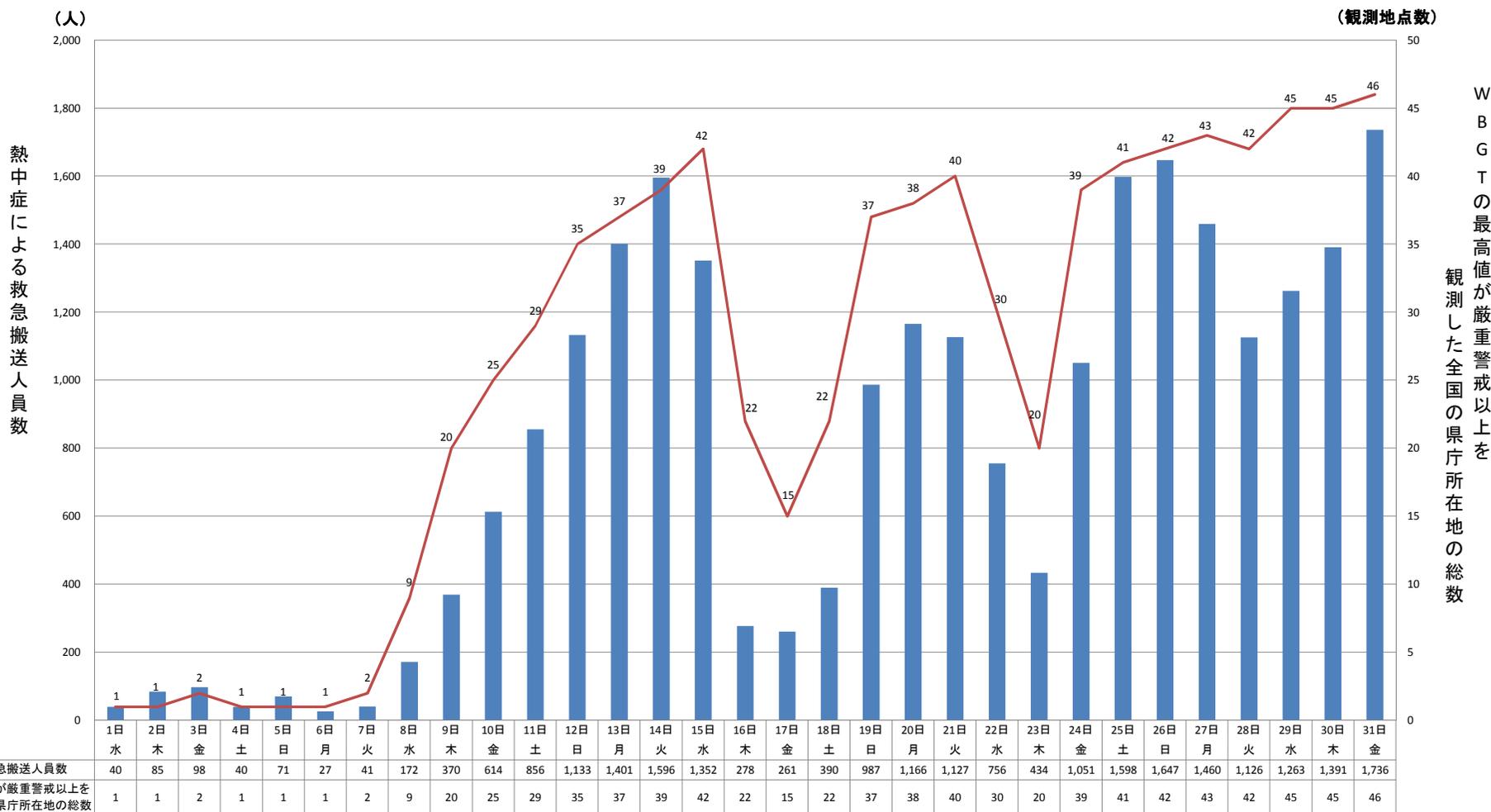
資料5

全国の熱中症による救急搬送状況(7月)

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬送人員 数(人)	年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
7月1日	水	40	0	0	6	16	18	40	0	1	12	27	0	40
7月2日	木	85	0	2	10	31	42	85	0	0	25	60	0	85
7月3日	金	98	0	0	12	32	54	98	0	0	37	61	0	98
7月4日	土	40	0	0	8	12	20	40	0	1	15	21	3	40
7月5日	日	71	0	2	21	25	23	71	1	2	12	55	1	71
7月6日	月	27	0	0	0	8	19	27	0	0	7	20	0	27
7月7日	火	41	0	0	2	13	26	41	0	0	10	31	0	41
7月8日	水	172	0	1	12	77	82	172	0	1	62	107	2	172
7月9日	木	370	0	1	36	143	190	370	1	12	156	197	4	370
7月10日	金	614	0	3	89	194	328	614	1	8	209	390	6	614
7月11日	土	856	0	5	185	283	383	856	1	13	269	566	7	856
7月12日	日	1,133	1	7	215	388	522	1,133	2	19	315	786	11	1,133
7月13日	月	1,401	0	14	158	442	787	1,401	6	41	499	853	2	1,401
7月14日	火	1,596	0	15	143	553	885	1,596	4	54	605	928	5	1,596
7月15日	水	1,352	0	9	129	448	766	1,352	6	45	520	771	10	1,352
7月16日	木	278	0	1	11	92	174	278	0	9	113	154	2	278
7月17日	金	261	0	1	28	86	146	261	0	6	112	142	1	261
7月18日	土	390	0	8	73	116	193	390	0	6	122	257	5	390
7月19日	日	987	0	13	226	335	413	987	0	22	275	684	6	987
7月20日	月	1,166	0	16	206	407	537	1,166	1	24	346	791	4	1,166
7月21日	火	1,127	0	12	133	439	543	1,127	0	24	399	702	2	1,127
7月22日	水	756	0	1	74	283	398	756	0	28	290	436	2	756
7月23日	木	434	0	2	51	159	222	434	0	8	160	261	5	434
7月24日	金	1,051	0	11	140	348	552	1,051	0	20	353	662	16	1,051
7月25日	土	1,598	0	19	349	565	665	1,598	1	32	429	1,130	6	1,598
7月26日	日	1,647	0	11	312	624	700	1,647	1	26	455	1,157	8	1,647
7月27日	月	1,460	1	11	152	536	760	1,460	2	38	516	897	7	1,460
7月28日	火	1,126	0	10	100	414	602	1,126	1	22	415	683	5	1,126
7月29日	水	1,263	0	8	133	464	658	1,263	1	31	442	773	19	1,266
7月30日	木	1,391	0	7	150	518	716	1,391	3	42	479	848	16	1,388
7月31日	金	1,736	0	10	150	693	883	1,736	7	52	585	1,077	15	1,736
計		24,567	2	200	3,314	8,744	12,307	24,567	39	587	8,244	15,527	170	24,567
熱中症の救急搬送人員数に 対する割合			0.0%	0.8%	13.5%	35.6%	50.1%	100.0%	0.2%	2.4%	33.6%	63.2%	0.7%	100.0%

日別の救急搬送人員数(全国)と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(7月)



【参考】

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 全国841地点数のうち、47都道府県の県庁所在地の総数と比較しています。
- (3) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (4) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より

資料7

平成22年～27年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表

(単位:人)

	平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)		
	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	
確定値	5月	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	月ごとの報道発表で更新していきます。		15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月			1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
	搬送人員数合計	30,503	44	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

※平成27年は4月27日から調査を開始

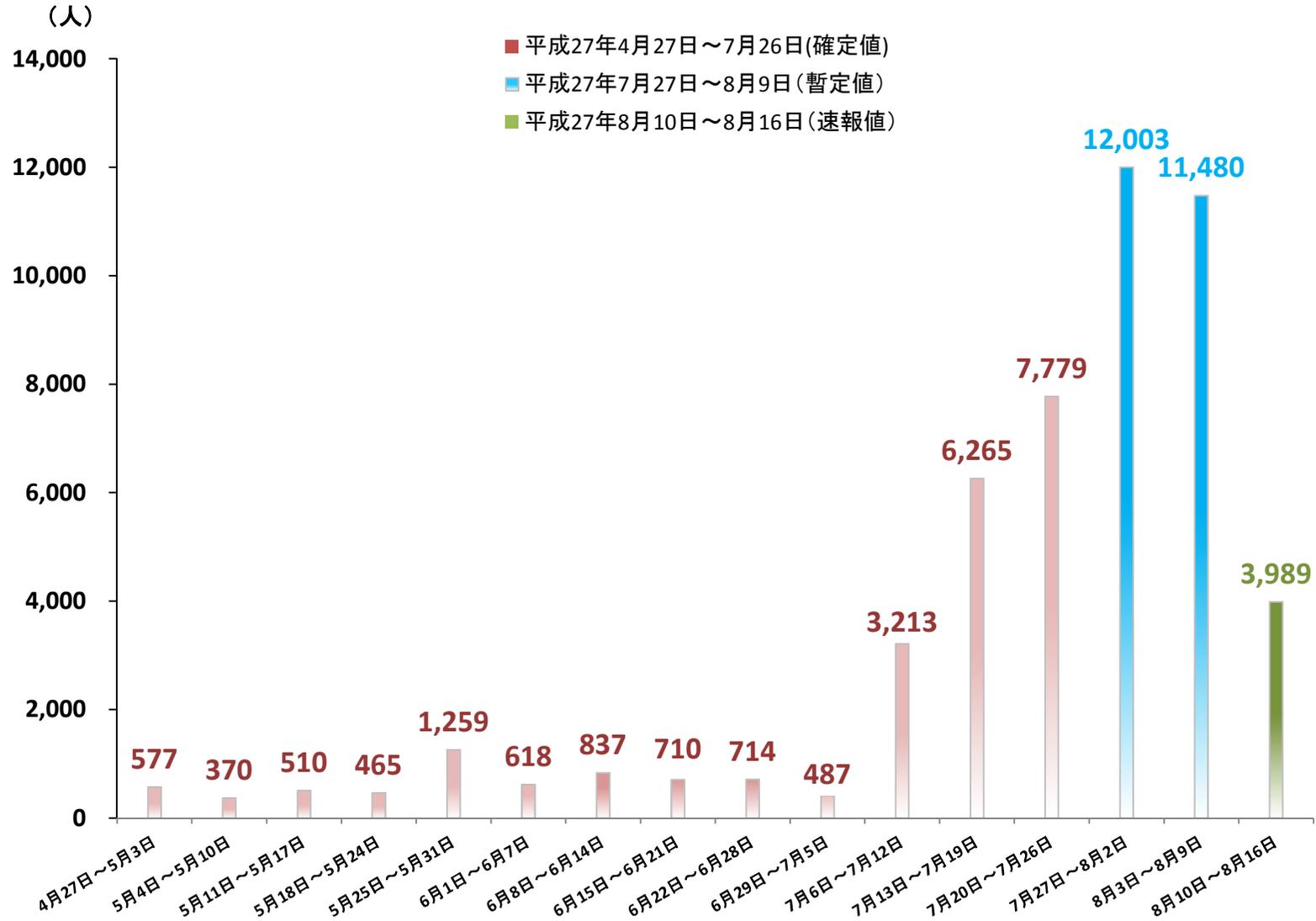
平成26年は5月19日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平年)
沖縄	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料8

平成27年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

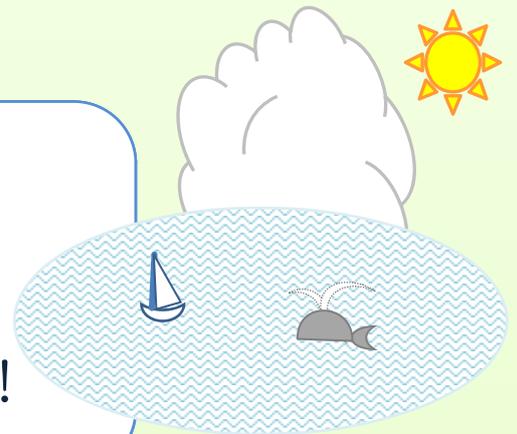


* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

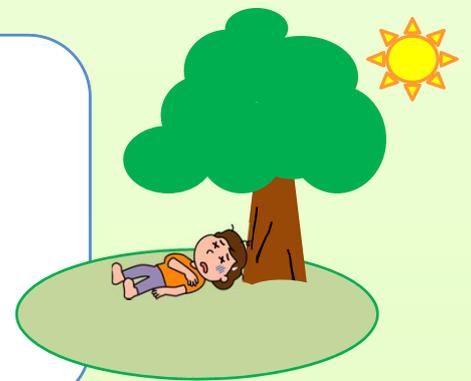
熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！

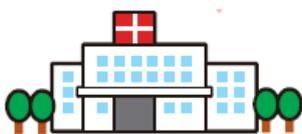


このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行くべき状態や症状についても紹介しています。
当てはまる場合は、ためらわずに119番しましょう。

※消防庁が作成した「救急受診ガイド」や、「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください
(消防庁HP「<http://www.fdma.go.jp/>」の右側のバナーをクリック)



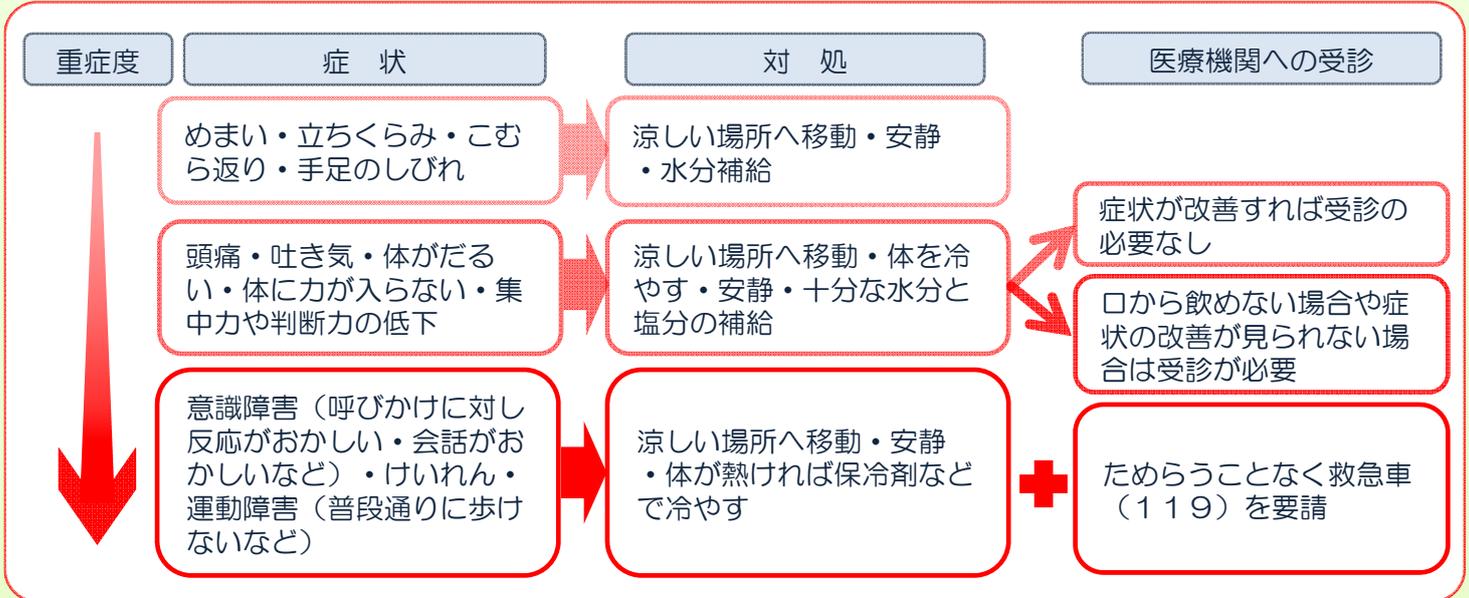
心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

熱中症とは？

室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法



こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう



- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック！
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ☺ のどが渇く前に水分補給！
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- ☺ 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を！
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされる



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、**熱中症にかかりやすい**

保護者の方へ

- 👉 お子さんの様子を十分に観察しましょう！
- 👉 遊びの最中には、水分補給や休憩を！
- 👉 外出時の服装に注意し、帽子も忘れずに！
- 👉 日頃から栄養バランスのとれた食事や運動、遊びを通して暑さに負けない体づくりを実践しましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、**自覚がないのに熱中症になる危険がある**

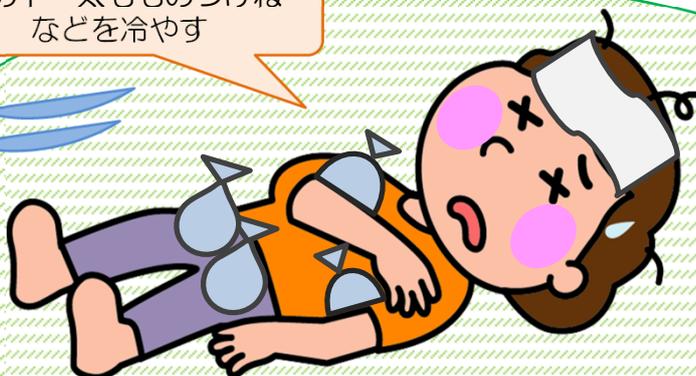
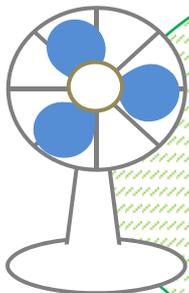
熱中症にならないために

- 👉 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- 👉 のどが渇かなくても水分補給！
- 👉 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう！

+ 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす

脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



🚨 持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



消防庁では、夏期（6月～9月）における熱中症による救急搬送の全国調査を実施しています。年代別では高齢者が4割を占めており、また、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方が入院しています。

6月～9月の熱中症による救急搬送者の内訳（平成22年～平成26年合計）

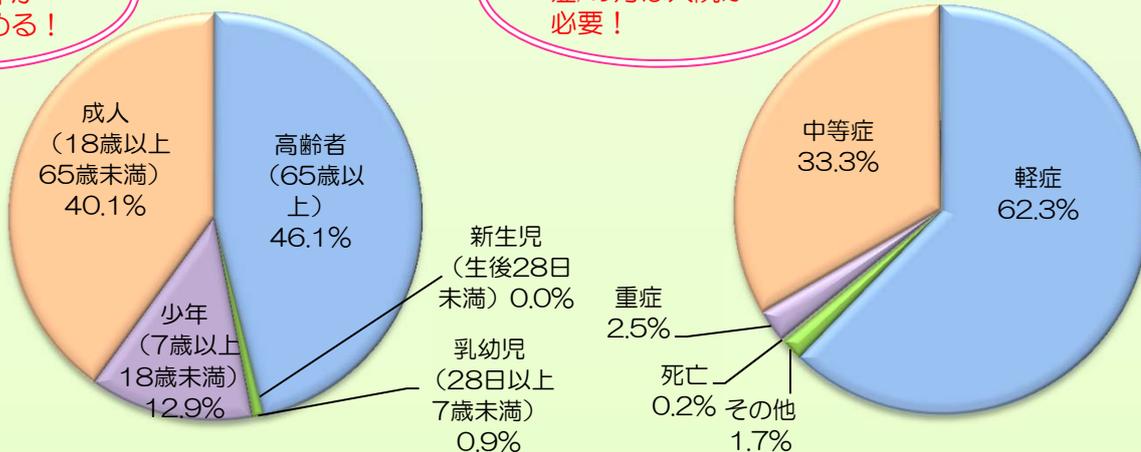
搬送人員計 247,066人

【年齢区分別】

【傷病程度別】

高齢者が約4割、
乳幼児と少年が
約1割を占める！

約4割(重症・中等
症)の方は入院が
必要！



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成22年～平成26年 6月～9月）

搬送人員計 247,066人



◆ 消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。
URL：<http://www.fdma.go.jp/>

参考

環境省：「熱中症環境保健マニュアル」http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html